

実践報告

市町村レク協会における生涯学習事業の可能性を探る

— 八王子市レクリエーション協会の実例紹介を通して —

八王子市レクリエーション協会 丸 山 正

1. はじめに

市町村レクリエーション協会は、全国的に組織率18%（財日本レク協会調べ）というのが現状である。本格的な余暇時代の到来により、増大する地域住民の多様なレジャー・レクリエーション要求に応えられる市町村レクリエーション協会の組織化は、現場の実践家、指導者、研究者を問わず全てのレクリエーション関係者に課せられた緊急かつ重要なテーマであると考えられる。同時に、市町村レクリエーション協会が「何をするのか」「何ができるのか」その事業内容を明らかにしていくことも大事なテーマであろう。

財日本レクリエーション協会が1995年4月1日に発表した「組織マスタープラン」によれば、市町村レクリエーション協会は、①市町村民のレクリエーション活動を統轄する機能、②レクリエーションに関わる人材を養成する機能、③レクリエーションに関する情報を収集し伝達する機能、④レクリエーションに関わる事業を展開する機能、⑤レクリエーションに関わる施設等を確保する機能を備えていなければならない、としている。

そこで、地域住民と直接かかわって展開される②及び④の機能に関わって、市町村レクリエーション協会が何をするのか、何ができるのか、八王子市レクリエーション協会がすすめている生涯学習関連の3種の付属機関（①八王子レクリエーション学院、②八王子カルチャーセンター、③八王子こども学園）の実例を報告し、問題提起としたい。

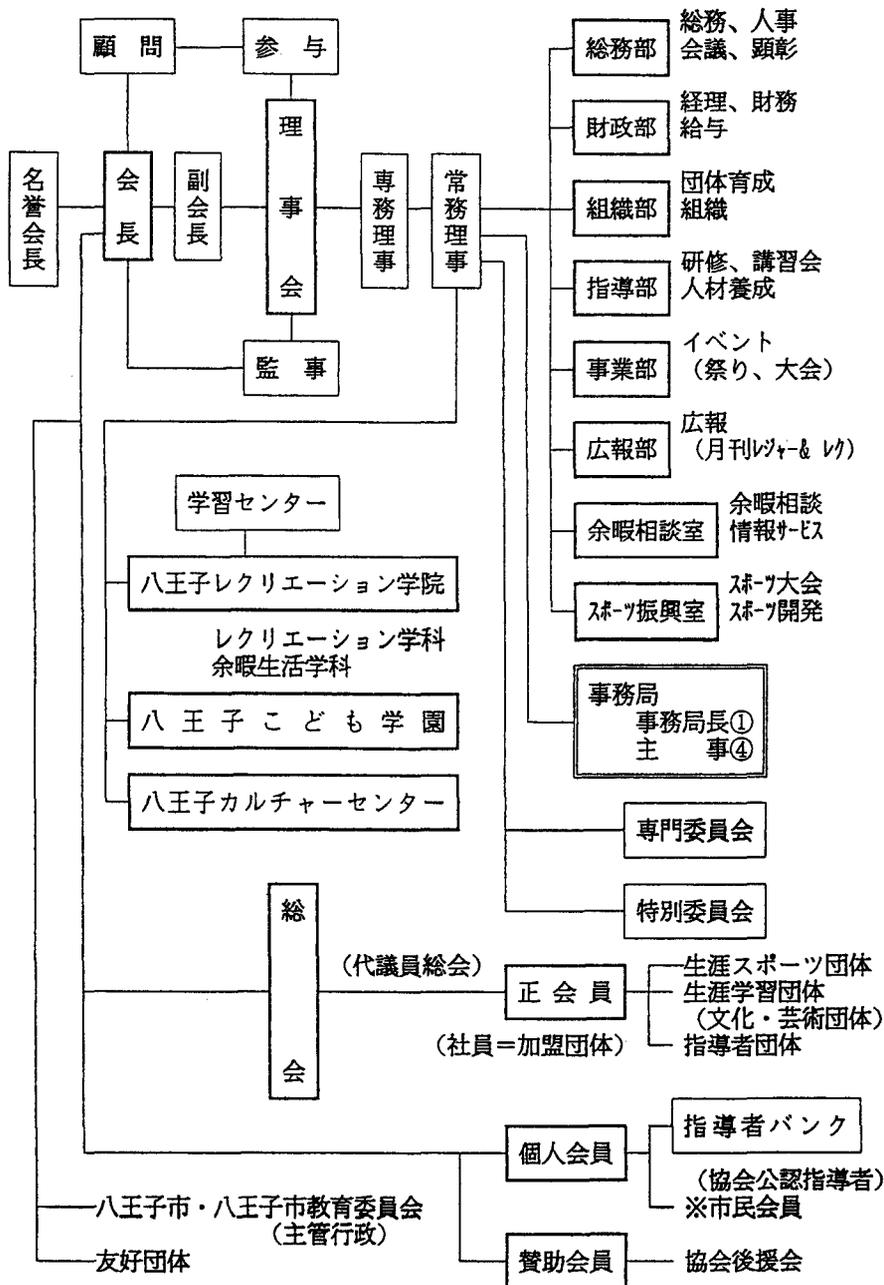
2. 八王子市レクリエーション協会の概要

八王子市は東京の西端に位置し、187.79平方km市域に488,113人（1995.6.1.現在）の市民が住み、明治の森高尾国定公園や陣馬、多摩、秋川などの都立自然公園に囲まれた、緑に恵まれた町である。この八王子は、甲州街道の宿場町、市場町として栄え、昔からこの地方の政治、経済、文化の中心地であった。関東五大機業地の一つで、撚糸、織物の中小工場が多く、「八王子織物」は、近年まで町を支える基幹産業であった。現在は、東京のベッドタウンとして発展し、また、21校もの大学が開設されて、学園都市としても注目されはじめた。地域活動も盛んで、体育協会、文化連盟、地域子ども会、体力づくりなどの団体が町の隅々まで成熟した組織をつくっている。

この八王子市に、レクリエーション協会が産声をあげたのは1972年12月4日である。創立当初は5団体（種目クラブ）で構成され、年間予算も7万円に過ぎなかった。初めの10年間は、市の教育委員会内に事務局を置いたが、その後、街のビルに独立事務所を構えてから事業が飛躍的に拡大し、いちょう祭りのような30万人を集める市民祭を手掛けているのははじめ、25回を数える市民レクリエーション大会、全国スポ・レク祭の発足に合わせ

て始め今年 8回目を迎える市民スポーツ・レクリエーション大会、2,000人規模のホールを貸し切ったの公演活動など、多くの住民参加の事業を提供するようになっている。また、将棋、手品、盆踊り、社交ダンス、健康体操など通年にわたって30講座に及ぶ住民対象の講習会も開催しているほか、毎月15日には月刊紙「レジャー&レク」を発行している。

現在、30の加盟団体（傘下の会員総数約 9,000人）を組織し、予算規模も一般会計だけでも 5,000万円を超えるまでに成長してきている。これらの事業は、25名の理事と専門委員と呼ばれるボランティア・リーダーが 8つの専門部を分担してすすめている。次の図は八王子市レクリエーション協会の経営組織図である。



3. 八王子レクリエーション学院

指導者は、養成したところに根づくと言われる。したがって指導者の養成は、指導者の基本的な活動の場である地域（市町村）でこそ養成すべきであるという立場から、(財)日本レクリエーション協会が認定する公認指導者の養成をすすめてきたのが、 年に設立された「八王子レクリエーション学院」である。

(1) 1995年度学院経営の基本方針（前文）から

八王子市レクリエーション協会は「地域の指導者は、地域協会が養成する」ことが大切と考え、学院を設立して16年間にわたり専門的指導者（地域型指導者）を育成してきた。また、(財)日本レクリエーション協会のアカデミー構想に賛同し、課程認定校制度発足に伴い、積極的にこの指定を受けて、旧規程によるレクリエーション2級、1級、上級指導者の養成に取り組み、(財)日本レクリエーション協会の「人材養成プラン」の“実験校的な役割”を果してきた。ところが、指導者資格制度の改定により、地域協会が、レクリエーション・コーディネーター、福祉レクリエーション・ワーカー、グループレクリエーション・ワーカーなどの資格を取得できる学校を経営することは困難になった。（課程認定の条件は満たせても、財政的に経営が成り立たない。）しかし、「指導者は養成したところに根づく」ことの重要さや、16年間積み重ねてきた実績を踏まえて、基礎的な資格である「レクリエーション・インストラクター」と「余暇生活相談員」を養成する専修学校として指導者の養成を続けるとともに、地域型レクリエーション学校づくりの旗手として、アカデミー・ネットワークの灯を掲げていかなければならない。

(2) 1995年度学生募集要項から

〔教育目標〕 学校教育法に準じて、広い見識と豊かな人間性を備えた専門的レクリエーション指導者を養成し、社会の文化と福祉に寄与することを目指して教育にあたる。

- ① レクリエーション欲求を敏感にとらえる態度と、実践を踏まえた確かな技術と豊かな表現力を開発する。
- ② レクリエーション活動を通して資質を磨き、豊かな知性と感性を開発する。
- ③ レクリエーションの組織化とプログラム展開の技術を身につけ、活動領域に応用できる能力を開発する。

〔教育方法〕

- ① (財)日本レクリエーション協会公認指導者資格認定規定（1994. 3. 26. 制定）に準拠して大学、専門学校等における指導者養成カリキュラムにより授業をすすめる。
- ② 前期末に調査研究レポートの提出、学年末に卒業論文の審査及び公開研究発表を実施する。年間を通じて、教授のゼミナールに入り研究をおこなう。
- ③ 前期末及び後期末に、修了認定考査を実施し、修学達成度を評定する。

〔設置学科〕

- ① レクリエーション学科（レクリエーション・インストラクター養成コース）
- ② 余暇生活学科（余暇生活相談員養成コース）

4. 八王子カルチャーセンター

八王子市レクリエーション協会は、1982年から「カルチャーセンター」を運営している。市内には大手報道機関や企業が経営するカルチャーセンターが開設されているのだが、他

のそれに比べて受講料が格安のこともあって、市民から「レク協のカルチャーセンター」として親しまれており、現在、協会の2つの研修室の他に、市民センターや自治会館など3か所を借り上げて、60コースの教室を開講している。また、市民の文化生活向上を旨として開設されたカルチャーセンターであるが、毎月きまった月謝が払い込まれるので、協会の財政確保の面からも大きな意味をもっている。

〔1955年度開設教室〕

月曜日 ヨーガ、木目込み人形、ポルトガル語入門、初級、中級、民謡、英会話初級
華道、民謡三味線中級、上級

火曜日 ヨーガ、大正琴、ギター、習字、英会話幼児、小学生、民謡かっぽれ

水曜日 長唄三味線初級、中級、ヨーガ、和裁、英会話入門、海外Ⅰ、海外Ⅱ、太極拳、
中国語入門、初級、中級、民謡三味線入門、初級、母と子のリトミック 1～2歳、
3～4歳、リトミック・ピアノ

木曜日 太極拳、英会話入門、初級、ギター、皮のローケツ染、イタリア語3コース、
ハワイアン・フラ

金曜日 健康体操とリズムダンス、華道、英会話初級、中級、ボールペン習字Ⅰ、Ⅱ、
民謡三味線入門

土曜日 着物着付け・組紐、習字、ヨーガ、英会話初級、中級、上級、太極拳

5. 八王子こども学園

八王子市レクリエーション協会のもう一つの付属機関が、協会の青少年健全育成事業の一環として1987年に開設した「こども学園」である。小学校3年生から中学校1年生までを対象にして、月2回日曜日に野外での活動を中心にすすめている“遊びの学校”である。

〔こども学園の教育目標〕

- ① レクリエーション活動を通して、人間性豊かな、創造性にあふれた子どもを育てる。
- ② 集団活動を通して社会性を養い、リーダー・シップを身につける。
- ③ レクリエーション活動を通して、健康安全をはかり、かつ自己表現力を養う。
- ④ 野外活動などを通して具体的な事例を体験することによって、応用力を養う。
- ⑤ 遊びの中から自分を発見し、自ら創造して遊べる能力を養う。

〔1995年度の主な活動予定〕

ロープを使っての楽しい遊び（富士森公園）、遊びの王国へ行こう（秋葉台公園）、ハイキング（高尾山）、料理を作ろう（北野市民センター）、釣り大会と川の観察（秋川渓谷）、宿泊ふれあいキャンプ（府中青年の家）、テント生活キャンプ（近県キャンプ場）、ニュー・スポーツにチャレンジしよう（昭和の森公園）、家族とウォークラリー（市内）見学（深川江戸博物館）、みんなで遊ぼう（都民広場）、子ども大会（そごうデパート屋上）、いちょう祭り（市内陵南公園）、家族クリスマス（市民センター）、スキーの旅（近県スキー場）、わらじ作り（協会）、家族ですべろうスケート大会（読売ランド）他

まとめ 地域のレク指導者が得意としてきたゲーム、ソング、ダンスなどのレク財を使った“楽しい集い”では、地域住民の欲求に応えきれないであろう。今後は、八王子市レク協会のような事業（試み）が全国の市町村レク協会で開催されることを願うものである。